

それぞれからクラスへ そして学年へ

きくのはな通信
年少 10月

9月から年少組では、少しずつ自分のクラス以外のお友だちともつながりが持てるといいな。という担任達の思いから、廊下の共有スペースに自然と子ども達が交わる様な工夫をしています。

【共有スペース1】 出席ノートのシール貼り

毎朝登園するところでカレンダーの日付を見ながら出席ノートにシールを貼ります。



【共有スペース2】 作品展示・掲示物

自然と子ども同士の関わりが増える様に廊下の共有スペースに季節や行事にちなんだ掲示もしています。

10月は、お芋ほりや焼き芋など経験したことも掲示しています。その時の写真を見て「たのしかったな」「このおいもおうちでたべた」「きょうやきいもたべるんやって」と写真や掲示物の前で会話も弾んでいるようです。

また森で拾ってきたお気に入りの葉っぱや自然物を使ったみんなの制作物なども展示しています。お友だちの作ったものを見て、自分にはないイメージを持ったり、より自然に興味関心を持ち、次回森のおさなご広場に行くのを楽しみにしたりと制作物の展示も、単に展示するだけの目的ではなく、創造力や次の興味関心につながるようにしています。



【共有スペース3】 電車・線路

どこのクラスでも大人気の線路と電車。廊下で作るとお部屋よりもながーくつなげることができ、みんなも大喜び。初めは各クラスの前で作っていた線路が気付けばつながっていたり…



【共有スペース4】 おみせやさん

保育者が用意したマントや帽子屋さんもあります。今はやり取りを楽しんでほしいという思いがあります。

「いらっしゃいませ」「なにがいいですか」と保育者を交えて子ども達同士でのやり取りも楽しんでいます。



廊下のみんなのスペースで活動することにより、いろいろなクラスのお友だちと触れ合うことが自然とできます。

3クラスのスペースにみんなが必ずする「出席ノートのシール貼り」「大人気の線路・電車」「お店屋さん」を出すことによって、いろいろな友だちを知るきっかけ作り中です。

今はまだ一緒に遊んだり、言葉を交わしたりすることも少ないですが、これから、『なんか知ってる』から、『この前一緒にあそんだ』、そこから『一緒に遊ぼう』と発展し友だち関係もクラスのお友だちから学年のお友だちへと少しずつ広がってってくれるといいなと思っています。

『それぞれ』から『みんなで』

運動会が終わり、みんなで頑張った経験から各クラス「自分のクラス」を意識し始めました。お部屋では一つの遊びを数人で継続して遊ぶ姿がみられるようになりました。それぞれのクラスの様子です。

あか組 『お城作り』



きっかけは「アナとエルサごっこ」。ごっこ遊びをするための今は準備期間です。「おしろのいろはこのいろ」「まわりにはいろんなかたちの模様をはりたい。」と子ども達から次々とアイデアが出てきます。そのイメージをもとに先生と一緒にどうやったらできるかな?と考えながら進めています。

きみどり組 『電車ごっこ』



この電車ごっこは1学期から続いています。毎日ずっと継続して続いているわけではありませんが、ふと思い出しては、何か必要なものを作ったりして続いています。運転手さんになりきってドアの開閉をしたり、電車を運転しお客さんをえきまで運んだりして遊んでいます。

だいたい組 『おばけやしき』



何人かの「おばけやしきをつくりたい」の声に答えて準備を始めました。一人一人のイメージするおばけを出し合い作っていきました。年中組なのでまだまだ話をまとめて、全体を意識してとまではいきませんが、みんなの前で自分の思いやイメージしているものを言葉にすることは話し合うことの大事な1歩です。「わたしが思うおばけやしきのおばけはこんにやく」「おばけやしきは暗くないとあかんねん」と自分のイメージするおばけやしきをみんなに伝えます。



選択活動では子ども達の「やりたい!」の声を拾って、先生がアドバイスしながら「あそび」を発展させます。選択活動中のあそびなので、今そのことに興味関心のある子ども達が参加しています。でも最初は興味がなかった子どももお城の壁を絵の具で塗っているのを見ると「たのしそうややる」と参加してみたり、電車ごっこではまわりでみていた子が「駅あったらいいんちゃう」の一言で駅の看板作りが始まったりと、個々の活動のようで、なんとなくクラス全体の活動になっていたり、それぞれのようにそうでないところが年中組らしさだなと思います。

自分たちで作る箇所を決めるなどの役割分担はしていませんが、「ぼくはせんろがつくりたい」「わたしは電車の色をぬりたい」「どうやったらお城みたいになるかな」と構造を考える子。「かわいいお城になるように飾りをつくりたい」と装飾を作る子。など単純に制作をするということだけでなく、自分のやりたいことを見つけ、遊びに参加しています。

自分の意見と他の人の意見の違いを感じたり、みんなの前で自分の思いを言葉にして伝えたりとそれぞれの活動は言葉の使い方や人間関係につながります。そのように「あそび」を通じて保育者と一緒に様々なことを経験していきます。まだまだこれらの遊びは途中です。このあと、どんどん発展していくかもしれません。はたまたそろそろ終わっていくかもしれません。そこも年中組らしさだと思います。まさしく子ども達はあそびの中で知恵や力をつけてゆきます。

きくのはなつうしん

10月号

『里芋』

1学期に年長組が森の畑に里芋を植えました。

その日からみんなでお世話をし、
今月やっと収穫し里芋汁にして食べる事が
できました。

子どもたちがどのようにして栽培に関わったのか1
学期からの活動の様子です。



<栽培・育てる>

白組では里芋ってどうやってできるんだろう、とみんなで成長する様子を
楽しみにしながらお世話してほしいという先生の願いがありました。



水やりはグループで交代で行きました。先生と週間天気予報を見ながら
どの日に行けるかを考え、「雨の降る日は行かないけど曇りはどうする？」など話し
合う表情は真剣そのもの。見通しを持って計画を立てることができるのも年長さん
ならではの姿です。畑では「葉っぱデカくなってきた」「こっちの葉っぱは大きいけ
どあちは小さいな」「水たりひんのかな」など成長を喜んだり成長の違いやその理
由を考える姿がありました。

<観察>

そして里芋の葉っぱがどれだけ大きくなっているか紙テープで高さを測り、
「今日はこのくらい大きくなっていました」などクラスのみんなに発表する時間も
設けることで、子どもたちの興味関心を高め、全体の活動として又、栽培・育てる・
観察・収穫・食育につながるようにしました。

夏休みはくすくすに来ていたお友だちが水やりや、雑草抜きに行ってくれました。
暑い中、「いっぱいお水あげよ」そんな会話が毎日聞こえました。



<収穫>

秋、いよいよ収穫の時。

葉っぱが虫に食べられてなくなったり、暑さで少し元気が
なかったけれど、土を掘ってみるとコロコロと里芋の姿が。
ずっと土の中で姿が見えなかっただけに、見つかる
「あった！」というみんなの嬉しい声が響きました。



<食べる>

そしてお待ちかねの食べる日。

かまどで里芋汁を作り、ひだまり園舎の田んぼでとれたお米をお釜で炊き一緒に
食べました。

「さといも美味しいな」「ごはんがあまい」と、たくさん声が聞こえました。



栽培活動を通して、成長する喜びや育てる事の難しさを知りました。
自分たちが毎日食べる物も誰かが一生懸命育ててくれていることに気づき、
感謝して食べる気持ちを大切にしようとクラスで話しています。